

地元のU・Iターンイベントに参加して

外国語学部 中国語学科2年 市川桃子

1. 皆さんは就職についてどのようなことを考えているでしょうか。私は、地元のU・IターンのSNSや神奈川大学の就職センターを利用して、就職について考えています。相談してみると自分が気づかなかったことや職の見つけ方を知ることが出来ました。仕事といっても様々ですが、自分がやりたいこと、自分なら貢献できることなど条件を当てはめていくことで、見えてくることがあると理解しました。短い期間の活動ではありますが、地元のU・Iターンに関する体験について知っていただけならよいなと思います。

2. 私の地元は東海地方で、工業地域があります。また山の幸にも海の幸にも恵まれて野菜や果物、魚は有名です。食べ物があるだけでなく、観光名所もたくさんあります。文化遺産に登録されているものもあります。食べ物にも、環境にも恵まれた地域に住んでいますが、県外で生活するまで地元の魅力に気づくことが出来ませんでした。

私の実家は畑があります。畑のある家はどこにもあるわけではありません。畑で作った野菜を食べることもありますが、自然豊かな土地だからこそできることなのだと改めて気づきました。

現在買い物をする時に産地がどこなのかを見ますが、地元の野菜が売られているのを見つけるとうれしくなります。今までは産地すら知らずともしなかつたので新たな発見でした。

3. 私は、入学してから地元での就職についてずっと考えていました。自分はやりたいことが決まっていなから、決まっていな状態で大学生活を送っても充実できないのではないかと思っていたからです。自分が将来何をしたいのかは決まっていませんでしたが、知見を広げるために自分の興味のあることについて学ぼうということだけは決まていました。私は二年間異文化を学んで、自分が知らなかつた世界や考え方を随分と知ることが出来たと思っています。地元で学んだことを生かせるかはともかくとして、自分の生き方や考え方と向き合う機会を得ています。しかし、「何をしたいのか」と考えてもなかなか見つかりませんでした。

ただ新鮮な地元の野菜や海の幸を食べることが普通のことだと思っていました。地元を離れたことで地産地消の流れが出来たことは素晴らしいことだと理解することが出来ました。自分は何が出来たのか。豊かな自然や生産を誇る場所

自分はどうのように貢献できるのかということを中心に強く意識するようになりました。

4. 市役所または県庁で働きたいと思っていたので、公務員はどのような仕事をするのかを説明していただくイベントに参加しました。暮らしを支えるだけでなく、その土地の魅力や特産物といった情報をPRする仕事もするため、地域貢献に直接携われるのだと理解しました。また、大学で地元のUターンに関するイベントが開催されたので、行ってみることにしました。

少し時期が早いと思っていました。行つてよかつたと今では思います。このイベントで学生が地元でUターンして就職するのをサポートしてくれる団体があることを知りました。SNSにより就職に関する情報を知ることが出来るので、するべきことは何かということを理解できました。

自分が持っている知識は浅はかなものでした。地元に戻り、地域に貢献できる地方公務員として働こうと思っていました。しかし、地域貢献は公務員だけではありません。地元で貢献するという形が見えやすいのは地方公務員として市役所などで働くことです。よく考えてみればすべての職業は地元で貢献しています。そのことに気づきました。

た。地方公務員という枠にとらわれずにもっと考えたいと思いました。

ただ、どのような職業が自分に向いているのか、自分がしたいことは何か……。ますますわからなくなっていました。就職のことは一旦考えるのをやめて、何をしたいのかを考えることにしました。地域に貢献できることは何か。どのようなことをすれば喜びを感じるのか。一人で考えても答えは出ませんでした。自分は何をしたいのかわかったとしても問題はここからです。これからどう行動していくのか。自分がやってみたいことは決まれば、その仕事を徹底的に調べ、自分は何ができるのかを考えていかななくてはなりません。

5. 私の地元には、U・Iターニサポートセンターという大学生など地方への就活を支援する機関があります。SNSを使って気軽に相談や就職イベント情報を確認することができるので便利です。悩んでいたのを、相談してみることができました。自分はどのようなことに興味があるのか、どういった思いがあるのか、どの地域に住みたいのかなど条件に当てはまった職を紹介してくれました。どのようなことに悩んでいるのかを聞いていただいたので、気持ちが少しすっきりしました。

コロナ渦の中でリモートでの相談でしたが、相談しやすい環境だったので非常に良かったです。自分ひとりで悩むだけでなく、誰かに相談して見るのも手じゃないかと思えます。自分で調べてもわからないような職業や会社を知ることが出来た

だけでなく、知っている職業があっても自分がその職に就こうとは考えないような仕事についても説明していただいたので、視野が広がったように思います。誰かと話すことで、自分が何をしたいのか明確にわかるようになっていきました。考えがまとまらないときは紙に書いて客観視できるので、手帳に書いています。自分の今やるべきことは何かを見つめなおすきっかけとなりました。

6. 企業の方と直接話をする事ができるイベントに積極的に参加しました。自分ならどのようなことができるのかを深く具体的に考えるようになりました。私は直接企業の方とお話しする機会がありました。直接話すことで、企業の方の雰囲気やその他の就活している方の雰囲気もわかったので、直接会うほうがリモートでの参加よりもわかることが多いです。

ほとんどリモートでの参加でしたが、神奈川県から地元へ帰るといのはなかなかできることではないので、参加しやすかったと感じます。企業の方にどのような仕事をするのか、一日のスケジュールについて、就職する際どのようなことに気をつけたのかなど質問しました。仕事内容を聞くそれぞれ仕事の魅力や大変さを知ることが出来ました。とにかくなんでも聞くことが重要だと理解しました。

早い人はもう就きたい職が決まり、インターンなどに積極的に参加している人もいます。私は早いほうだと思っていたので驚きでした。少し焦り

を感じています。どのような仕事があるのかというのを早めに知っておくことで、自分と向き合う時間を必然的に確保することが出来ます。リモートでのイベントならば、どこでも参加することが出来るため、多くのイベントに参加することをおすすめします。